



CONTENTS

第20回学術集会を目指し、新たな出発.....	1
日本食物繊維学会第11回学術集会プログラム.....	2-7
編集委員会より.....	8

 **第20回学術集会を目指し、新たな出発** 

田所忠弘（東京農業大学）

現在、会員数250余名を抱えた当学会は10周年の区切りを終えて新たに11年目に入り、関東学院大学倉沢新一先生のもと第11回学術集会開催を迎えることになりました。ようやく数字の上では二桁回数途切れることなく日本食物繊維学会は先達の諸先生方の創案、実行から今日の発展まで全会員ご協力のお陰で様々な苦勞を乗り越えて国際的にアピールできる学会にもなりました。当初の目的の一つに食物繊維（ダイエタリーファイバー）を広く世に定着させたいとの思いも今日では成就したものと思います。

しかし、一方で存続的な学会運営として厳しい見方をすれば、どの学会も問題として抱えている会員数の増加はほとんどなく、とくに若手研究者の少ない状況は当学会も同じで憂慮すべき現状とも解せません。11年目の安定期にある現在から20周年を恙無く迎えるために今後どのような活動を行っていくか、単に会員数の勝負ではなく基礎研究から実践的な研究まで質の高い循環型かつ持続型の名実ともに魅力ある世界的な学会として活動するためにはどうあったら良いのか新たな模索の始まりでもあります。

ところで、本11年目の新たな節目となる第11回の学術集会の内容を垣間見ると新たな研究領域の取り込み姿勢が窺えたり、シンポジウムも「食物繊維の研究の歴史をふまえ、今後の進む方向性を考える」パネルディスカッションが組まれており、次の20周年に向けて積極的な今後の展開が大いに期待できます。

少子化を起点に大学や大学院の改革がますます進んでいる現在、研究者の確保は大きな問題であります。当学会においても若手研究者の育成にも役立つようにと奨励賞が設けられていますので奮ってアプローチしていただきたいと思います。循環型かつ持続型の名実ともに質で勝負できる世界的な学会を考えたとき、「若者達が積極的に参加していること、活躍していることが必須」(NewsletterNo. 14, 2002)との桐山修八先生の巻頭言が切実に思い起されると同時に「絶え間ないブレークスルーが切望される」点では、Ian L. Brown氏他（日本食物繊維学会誌 Vol. 10, No. 1, 2006）が書かれた論文中の Synbiotics もそうであるとともに年齢に関係なく研究に向けて全会員、我々自身の内在パワーを再燃すれば憂慮は杞憂にすぎないことなのかもしれません。

第11回学術集会プログラム

会 場 関東学院大学 関内メディアセンター（横浜市中区太田町）
集会長 倉沢 新一（関東学院大学教授）

1. 行事日程

11月17日（金）

9:00 ～ 11:40	一般講演発表
13:00 ～ 14:00	評議員会・総会
14:00 ～ 14:50	特別講演
15:00 ～ 18:15	シンポジウム パネルディスカッション
18:30 ～ 20:30	懇親会（MARIN CLUB）

11月18日（土）

9:00 ～ 11:20	一般講演発表
11:40 ～ 12:00	奨励賞授与式
14:00 ～ 16:30	市民公開講演会

2. 参加者への御案内

1) 総会および学術集会受付

受付は開始 30 分前より行います。参加費（講演要旨集代込み）として、正会員 3,000 円、学生会員 1,500 円、非会員 4,000 円を申し受けます。

2) クローク

クロークは準備ができませんので、予めご了承ください。

3) 昼食

昼食は、会場周辺に飲食店、コンビニエンスストアがありますので、これらをご利用下さい。また、会場の一部に休憩所を設置いたしますのでご利用下さい。

4) 宿泊の手配など

宿泊は、横浜駅周辺や会場付近のホテルなどが便利です。事務局では、宿泊の斡旋をいたしませんのでご了承下さい。

5) 懇親会

シンポジウム終了後に懇親会を開催いたします。当日、受付で申し込んでください。会費は 4500 円（学生 3000 円）です。

日時 11月17日（金） 18:30 ～ 20:30

場所 MARIN CLUB <http://www.marine-club.co.jp/index.html>

〒231-0017 横浜市中区港町 3-14 キリン関内ビル 2F

Tel. 045-662-8240（JR 関内駅北口前）

6) 連絡先

第 11 回日本食物繊維学会学術集会事務局

〒 236-8503 横浜市金沢区六浦東 1-50

関東学院大学人間環境学部健康栄養学科

電話・ファックス 045-786-7823 E-mail : kurasawa@kanto-gakuin.ac.jp

7) 横浜中華街「中華料理を楽しむ会」

11月16日(木)18:00(理事会終了後)に開催します。場所は均昌閣本館(中華街本通り)で会費は7500円です。参加希望者は11月13日午前中までに学術集会事務局までにFAXまたはE-mailでお申し込みください。

8) 学術集会会場：関東学院大学(KGU) 関内メディアセンター(横浜メディア・ビジネスセンター8F)への交通案内

■みなとみらい線「馬車道駅」下車，徒歩約3分。

市庁舎方面・7番出口「本町通り口」から，本町通りを直進し，とみん銀行角を右折すぐ。

■みなとみらい線「日本大通り駅」下車，徒歩約3分。

県庁・大さん橋方面・1番出口「県庁口」から，本町通りを直進し，とみん銀行角を左折すぐ。

■JR線・横浜市営地下鉄線「関内駅」下車，徒歩約5分。

県庁方面へ関内桜通りを直進。

■首都高速「横浜公園」出口から約5分。

県庁方面へ直進し，本町通りを左折後，4本目の交差点，とみん銀行角を左折すぐ。

(KGU関内メディアセンター <http://media.kanto-gakuin.ac.jp>)

市民公開講演会のお知らせ

11月18日(土)14:00～16:30

関東学院大学 KGU 関内メディアセンター

司会 関東学院大学 教授 倉沢新一

テーマ 健康を支える食の中核・食物繊維 — 知っておきたい最新情報 —

1. 食物繊維に関する最近の話題

大妻女子大学 教授 池上幸江

2. メタボリックシンドロームの予防と食物繊維

タニタ体重科学研究所 所長 池田義雄

3. 健康情報とその落とし穴

国立健康・栄養研究所健康栄養情報研究室 室長 廣田晃一

一般講演プログラム

第1日目 11月17日(金) 9:00-11:40

時刻 演題番号

演 題

座長：中村禎子（長崎シーボルト大）

- 9:00 1-1 粘質性多糖ケフィランの構造とその機能性
○加藤久宜，朱 霞（大和薬品），北村進一（大阪府大），
光岡知足（東大名誉教授）
- 9:20 1-2 イオン交換能を有する難消化性デキストリンの開発
○市原敬司，松田 功，大隈一裕（松谷化学工業株）
- 9:40 1-3 難消化性デキストリンがミネラル吸収に与える影響
～ in vivo での検討～
○中川智絵¹，岸本由香²，市原敬司²，原 博¹
¹（北大院農）²（松谷化学工業（株））
- 10:00 1-4 難消化性デキストリンの食後中性脂肪の上昇に及ぼす影響
○岸本由香，大賀浩史，林 範子，山田貴子，田上廣幸，大隈一裕
（松谷化学工業株）

10:20 総合討論

座長：早川享志（岐阜大学）

- 10:30 1-5 Feeding of difructose anhydride III (DFAIII) lowers body fat accumulation in female rats fed high-sucrose diet.
○Violeta G. Raneva, Akiko Tamura, Junji Ishikawa, Hironori Tomi (Research Institute, FANCL Co.), Emi Shimidzu, Koichi Sejima, Taro Kishida, and Kiyoshi Ebihara (Faculty of Agriculture, Ehime University)
- 10:50 1-6 ビートファイバーによるラットの飼料摂取量および体脂肪の変動と末梢および中枢の摂食調節機構の関係
○岸田太郎，瀬島宏一，松木 愛，海老原 清
（愛媛大学農学部生物資源学科栄養科学研究室）
- 11:10 1-7 ハイアミロースコーンスターチと湿熱処理ハイアミロースコーンスターチ投与によるコレステロール代謝に及ぼす影響
○持田和美（長岡高専・物質工，現きむら食品），安東竜一（日本食品化工・研究所），栗林 喬，近藤妙子，菅原正義（長岡高専・物質工）
- 11:30 総合討論

第2日目 11月18日(土) 9:00-11:20

時刻 演題番号

演 題

座長：真田宏夫 (千葉大学)

9:00 2-1 食物繊維摂取時の消化管内ムチン量の測定

- 0-結合性糖鎖当量と ELISA 法による測定値の比較 -

○田邊宏基, 伊藤弘幸, 森田達也 (静大・農), 桐山修八 (静岡県大)

9:20 2-2 新規なモデル動物 STR/Ort マウスを用いた大麦の機能性の評価

○荒木茂樹¹, 青江誠一郎², 加藤美智子², 木原 誠³, 清水千賀子¹,
中村義幸⁴, 伊藤一敏³, 池上幸江²

¹ (サッポロビール(株)・価値創造フロンティア研究所), ² (大妻女子大学・家政学部), ³ (サッポロビール(株)・バイオ研究開発部), ⁴ (サッポロビール(株)・酵母製造センター)

9:40 2-3 ヒトにおける呼気水素ガス排出試験を用いたグルコマンナンのエネルギー評価, ならびに 36 時間連続試験による発酵連続性と呼気水素ガス排出動態の検討

○中村禎子, 中村まり子, 奥 恒行

(県立長崎シーボルト大学大学院人間健康科学研究科)

10:00 総合討論

座長：森田達也 (静岡大学)

10:10 2-4 サイリウムおよびビスフェノール A のヒト由来乳がん細胞増殖への影響評価に対する DNA マイクロアレイを用いた判定

○鈴木 誠, 北元憲利, 辻 啓介 (兵庫県大院・環境人間)

10:30 2-5 天草の食物繊維がラットにおける D-ガラクトサミン肝障害の発症に及ぼす影響

○川野直子, 江頭祐嘉合, 真田宏夫 (千葉大院・自然)

10:50 2-6 う蝕菌 Glucosyltransferase のグルカン形成に及ぼす桑葉抽出物の阻害効果

○石黒美智留, 安藝真里子, 中村禎子, 奥 恒行

(県立長崎シーボルト大学大学院人間健康科学研究科)

11:10 総合討論

特別講演・シンポジウム パネルディスカッションプログラム

11月17日（金）14：00～14：50

特別講演

司会：倉沢新一（関東学院大学）

「見えてきた腸内菌叢の全容 -腸内菌叢に及ぼす食事成分の影響-」

辨野義己（理化学研究所・バイオリソースセンター微生物材料開発室 室長）

11月17日（金）15：00～18：15

シンポジウム パネルディスカッション

食物繊維研究の現状と今後の展望

-食物繊維の研究の歴史をふまえ、今後の進む方向性を考える-

時刻	演 題
	座長：奥 恒行（県立長崎シーボルト大学）
15：05	1. 食物繊維の定義と国際的な整合性 山田和彦（国立健康・栄養研究所）
15：25	2. 食物繊維の分析に求められるもの 金谷健一郎（日本食品分析センター）
15：45	3. 食物繊維の生体内代謝に及ぼす影響 辻 啓介（兵庫県立大学）
16：05	4. 食物繊維の生理作用と消化管機能 青江誠一郎（大妻女子大学）
	（10分休憩）
16：35	5. 食物繊維の疾病予防とエビデンス 江頭祐嘉合（千葉大学）
16：55	6. 食品工業における食物繊維の利用 大隈一裕（松谷化学工業株式会社）
17：15	追加発言および総合討論

講演者、討論者、座長へのお願い

1) 講演

講演時間：発表15分、討論5分（15分で1鈴、17分で2鈴、20分で3鈴）
発表用としてパワーポイントプロジェクター（OSはWindowsXP）、とOHPを用意します。パワーポイントプロジェクターの場合は、予め会場内のスライド担当係員にファイルを30分以上前にご提出ください。この際にはできましたら、USBメモリーでご提出をお願いします。また、OHPは書画カメラプロジェクターシステムですので、普通紙でも対応できます。なお、シートの入れ替えは各自でお願いいたします。ご講演時間はお守りください

2) 討論

質問者は座長の指示に従い、所属と氏名を述べてからご発言ください。
本学会では質疑応答を活発にするために、多目の時間をとっていますので、フランクに討論してください。

3) 座長へのお願い

運営の都合上、当該時間の30分前までに会場へ到着し、受付に出席している旨をお知らせください。

発表演題についての質問が少ない時は、その周辺の問題に関連した話題などを引き出してください。ただし、指定時間は厳守してください。



本年度日本食物繊維学会奨励賞の申請のご案内

若手研究員（学会年度3月31日で40歳未満）の入会と発表を奨励する目的で、平成16年度より日本食物繊維学会奨励賞が設けられました。学術集会で筆頭者として発表する方は応募いただきますようお願いいたします。賞状と副賞が授与されます。なお、応募用紙はホームページに掲載されています。

奨励賞申請資格：

本年度3月31日現在で満40歳未満の本学会の会員が、第11回日本食物繊維学会学術集会において筆頭者として発表を行った研究報告の発表者を対象とする。

審査と表彰：

学術集会開催期間中に、奨励賞選考委員会で決定し、表彰する。

申請宛先：

原則としてメール（添付書類）で受け付ける。

第11回日本食物繊維学会学術集会事務局

メールアドレス：kurasawa@kanto-gakuin.ac.jp

締め切り期日：

平成18年11月15日必着

編集委員会より

本年 11 月 17, 18 日両日に渡り関東学院大学・倉沢新一教授を集会長に第 11 回学術集会在開催されます。今回は「食物繊維研究の現状と今後の展望」と題したシンポジウムが企画されています。今年は食物繊維研究会から食物繊維学会へと通算して 11 年目に入ったこともあり、食物繊維の研究の歴史をふまえ、今後の進む方向性を考えるパネルディスカッションとなっています。本学術集会上に多数の食物繊維・ルミナコイド研究者が集まり活発な討論が行われることを期待します。また、巻頭言にもありましたが、会員数が減少傾向にあります。今後学生会員が増えていくことが今後の学会活動の発展に重要と思います。諸先生方のご指導をお願いいたします。(青江)

会員状況：平成 18 年 10 月 27 日現在

●正会員	208 名	●学生会員	11 名	●賛助会員	45 社
●団体会員	4 団体	●名誉会員	7 名		

【賛助会員】

旭化成ケミカルズ株式会社
株式会社アドバンス
株式会社荻野商店
社団法人菓子・食品新素材技術センター
サントリー株式会社
昭和産業株式会社
第一出版株式会社
大和化成株式会社
ダニスコジャパン株式会社
日清ファルマ株式会社
日本ケロッグ株式会社
日本バイオコン株式会社
株式会社林原生物化学研究所
富士バイオ株式会社
雪印乳業株式会社

朝日食品工業株式会社
伊那食品工業株式会社
株式会社カイゲン
コロド・ナチュラルジャパン株式会社
三和澱粉工業株式会社
株式会社カーギルジャパン
大日本住友製薬株式会社
大和薬品株式会社
株式会社東洋新薬
日本甜菜製糖株式会社
財団法人日本こんにやく協会
ニュートリヴァ・ジャパン株式会社
フィプロ製薬株式会社
松谷化学工業株式会社
塩水港精糖株式会社

ユニチカ株式会社
大塚製薬株式会社
株式会社 J-オイルミルズ
佐合食品工業株式会社
清水化学株式会社
全国精麦工業協同組合連合会
太陽化学株式会社
武田キリン食品株式会社
日清食品株式会社
日本エヌエスシー株式会社
日本食品化工株式会社
株式会社はくばく
フジ日本精糖株式会社
明治製菓株式会社
ロケットジャパン株式会社
(順不同)



日本食物繊維学会

Newsletter No.22

発行日 : 2006 年 10 月 27 日
発行人 : 日本食物繊維学会理事長 池田義雄
編集人 : 真田宏夫, 青江誠一郎
印刷所 : 江戸クリエート株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-40-10
三翔ビル本郷 3 階

日本食物繊維学会事務局
〒162-8636 東京都新宿区戸山 1-23-1
独立行政法人 国立健康・栄養研究所
食品保健機能プログラム気付
TEL : 03-3203-8063, FAX: 03-3205-6549
<http://jdf.umin.ne.jp>